

令和7年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立葛飾野高等学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 事務局長（総務主任） 1名
- (3) 協議委員の構成 公的機関代表、近隣中学校長、近隣自治会関係者（2名）、保護者代表、
同窓会代表 計6名
- (4) 内部委員の構成 副校長、経営企画室長、教務主任、進路指導主任、生活指導主任、総務主任、
学年主任代表 計7名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会の開催日等
 - 第1回 令和7年6月19日（木）協議委員4名、内部委員8名
授業公開、協議委員委嘱、委員紹介、昨年度学校経営報告、今年度学校経営計画、
各分掌・学年の今年度目標、協議・意見交換
 - 第2回 令和7年11月13日（木）協議委員4名、内部委員7名
授業公開、本校の状況説明、各分掌・学年等の中間報告、
学校評価アンケート実施及び同アンケート（案）の内容検討、協議・意見交換
 - 第3回 令和8年2月6日（金）協議委員3名、内部委員8名、
各分掌・学年等による成果と課題報告、学校評価アンケート結果報告、意見交換・情報共有
- (2) 評価委員会の開催日等
 - 第1回 令和7年 6月19日（木） 評価委員1名、内部委員2名
評価委員委嘱
 - 第2回 令和7年11月13日（木） 評価委員1名、内部委員2名
学校評価アンケート案の内容及び実施方法等の検討、協議
 - 第3回 令和8年 2月 6日（金） 評価委員1名、内部委員2名
学校評価アンケート結果原案の検討、協議

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 生徒 対象：933人 回収：671人 回収率： 72%
 - ・12月 保護者 対象：933人 回収：302人 回収率： 32%
 - ・12月 近隣住民 対象： 40人 回収： 34人 回収率： 85%
 - ・12月 教員 対象： 51人 回収： 41人 回収率： 80%
- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、
ライフワークバランスの推進
- (4) 評価結果の概要
 - ・地域の本校生徒への肯定的評価は積極性100%、迷惑なし91%と高かった。葛飾野新聞の配布、横断幕の
掲示、部活動による清掃活動など、地域に向けた活動の活発化が主な要因として考えられる。
 - ・保護者の回答率が46%から32%へ減少した。Classiなどの利用率向上が今後の課題である。
 - ・保護者回答の項目で昨年度比もっとも増加したのは特別活動への取組で10ポイント増加した。
 - ・生徒の回答で肯定的評価のうち最高は、帰属意識91%だった。補習など学習指導に関する評価は減少している。
 - ・教職員の肯定的評価は、教育相談体制・学校広報・入学満足度が95%となっている。
- (5) 評価結果の分析・考察
保護者の「入学させたこと」への肯定的評価は93%、生徒の「入学したこと」への肯定的評価は90%
といずれも昨年よりも3ポイント向上した。「帰属意識」では保護者91%（昨年度91%）、生徒91%
（昨年度89%）となっており、全体的に高い満足度が伺えた。

生活指導や学習指導について教員の肯定的な回答が高いのに対し、生徒の回答はマッチしている部分が多くみられるが、保護者の意識としてはまだ十分な成果が出ているとはいえない。要因としては、学校での取り組みが保護者に十分伝わっていない可能性がある。学校広報活動については、対外的なものだけでなく、保護者に向けても工夫が必要である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・協議委員から本校の課題や問題点、改善点について、具体的な質問や建設的な意見・提言を受けられた。
- ・正門前の掲示板を新しくし校内の様子を伝える葛飾野新聞を掲示し、地域の皆様に配布したことが、地域の方に学校の情報を伝えることにつながった。地域の掲示板等への掲示を検討することとなった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・自転車通学の生徒が多い中、交通ルールを遵守しての通学が徹底されれば、近隣住民等の安心・安全につながり、地域の学校全体に対する更なる肯定的評価につながる。
- ・学校評価アンケートの生徒の回答については、複数の問でおおむね数値は高めではあるが、生徒が自ら目標を立て、困難に打ち勝ち、達成に向けて活動が継続できるよう指導していく。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・生徒、保護者に教育目標等を積極的に周知し、一層、教育活動への理解と協力を得られるようにする。
- ・これまで以上に地域から大切な存在と評価されるよう、よりよい教育活動の実践に努める。
- ・生徒の「入学してよかった」の肯定的評価の更なる割合向上を目指し、教育活動の更なる工夫改善を図る。

(2) 学習指導

- ・アクティブラーニングの視点を取り入れた授業改善への取組を継続し、生徒の主体的な学びを引き出す。
- ・授業外学習時間の習慣を身に付けさせるためにも、キャリア教育と結び付け、学びへの内発的動機付けを高めさせる。
- ・放課後講習、外部模試活用の在り方を見直し、新たな学力向上施策の推進に取り組む。

(3) 生活指導

- ・生活指導の一層の充実には保護者や地域の理解と協力が必要である。校則は、学校生活を送るに当たり、必要かつ合理的な範囲で定めた学習・生活上の規定であるということを理解してもらう。

(4) 進路指導

- ・「葛飾野の進路指導」の定着と質的向上を図っていく。学年と進路部による丁寧な個人面談を継続する。
- ・生徒、保護者には計画的に適時・適切な進路情報を発信し、一層生徒の進路実現への意識啓発を図る。

(5) 特別活動

- ・ホームルーム活動、学年集会等の充実を図り、生徒のクラスや学年、学校への帰属意識を涵養する。

6 「学校がよかった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 6人

(2) 学校がよかったと（「どちらかといえばそう思う」を含む）答えた協議委員の人数

そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない	無回答
3	2	0	0	0	1

(人)

7 職員会議、企画調整会議等への協議委員の参加実績

- ・各会議への参加実績なし（ただし、令和7年6月19日、11月13日に『授業参観』の実績あり）

8 その他

- ・学校評価アンケートの回収については、保護者と地域からの回収率が課題である。
- ・地域・保護者による学校評価を向上させるため、教育活動に係る情報発信の充実と、学校の取組内容の可視化に努める